

らの學校をも有つやうにすべきである。かやうなグループと、かやうな學校が出来上つてゐると、遂には若干の大學が傳統的な教育方法を棄て、青年にその眞の性情に適つた訓育を與へて、彼等へ新らしい明日の生存に對する準備を得せしめるやうにならう。

個人のグループと云ふものは、いくら小さくとも、所屬員の間へ軍隊や修道院の紀律に似たやうな規則を設けることによつて、その時代の社會から來る悲惨な影響から免れ得るものである。そして、この方法はなにも新らしいものではない。人類の歴史にはすでに幾度か、或る理想へ達するために男子又は婦人の共同團體が、一般の習慣とは非常に異つた行狀規定を設けてゐた時代があつたのである。實のところ、吾々の文明が中世紀の間發達して行つたのは、此の種の、例へば修道院とか騎士團とか職人組合などのやうなグループのお蔭である。修道團體のうちには、修道院を建てて世間と隔絶したのもあれば、世間に留まつてゐたものもある。併し何れも心身の雙方に於ける嚴しい紀律が守られてゐたのである。又騎士團でも、團種によつて制規はいろ／＼であつたが、此等の制規は、場合によると騎士等に生命の犠牲をなさしめる性質のものであつた。又職人組合では、組合員同士、及び彼等と一般人との間の關係が細かい規定によつて決められ、各組合ごとに服裝も禮儀の爲方も祭典の行ひ方も特殊のものとなつてゐたので、要するに組合員は多少とも世間一般

の生活方法を棄ててゐたのである。してみると吾々にしても、一つの違つた形の下で、嘗て修道僧や騎士や職人等が中世紀にした事を繰り返すことの出来ない筈はなからう。人間の進歩の二つの根本的な要件は孤立と紀律である。今日でも總ての人間は、大都會の混亂の中でも尙、自分をこの要件に従はせることが出来る。即ち、自由に友人を選び得るし、芝居や映畫を見に行かなくとも、ラヂオの放送を聴かなくとも、或る種の新聞雜誌や書物を讀まなくとも、子供を或る種の學校へ通はせなくともすむのである。併し、吾々がよく自分を改造し得るやうになるのは、何よりも先づ、一つの知能的・道徳的・宗教的紀律を守り、一般民衆の生活慣例に従ふのを廢めてしまふことに依つてである。そして、かうしたグループが相當に多く出来る、それ等は一層多くそれ／＼の個人を生かすやうな生活を實行することが出来る。加奈陀のツツカボールは現代にあつてさへ、十分に鞏固な意志を有つてゐる者共が、如何によく何れほどの獨立した存在を保ち得るかの好實例である。實際、現代社會を十分に改變させるためには、一般人と見解や生き方を異にした者がグループを作る必要があるとともに、さうした人々の數は、必ずしも非常な多數に上ほることを要しないのである。もはや古くから觀察上確かめられてゐるやうに、紀律といふものは人間に大した力を得せしめるので、苦行的な生活と神祕派的の信仰とに一生をさへげてゐる少數者は、いくらかも經たないう

ちに享樂と惰弱とに生きてゐる多數者の上に不可抗的な威力を獲得するものである。彼等は説服或は恐らく強制的に、彼等多數者をして、違つた生活を執らしめるやうにすることが出来よう。何れにしても、現代社會の信條・主義は決して確乎不動のものでない。廣大な工場も、摩天樓のやうなビルディングも、殺人的な危害を充たした大都會も、工業文明の侍女になつてゐる道德説も、生産萬能の神祕説も、吾々の眞の進歩にとつて必要のものでない。別の生き方、別種の文明があり得るのである。人間を弱体化させるやうな享樂のない文化、贅澤を伴はない美、工場生活といふ奴隸化を隨へない機械、物質禮拜なしの科學こそは、人間を無限に發達せしめ、しかも彼等をしてその良智と道念と剛健性とを失はしめることがないであらう。

六

個人の選抜——生物學的階級と社會的階級

文明人といふ大きな群衆に一つの選擇を加へることが必要である。自然淘汰がよほど以前から行はれなくなつてゐるのは吾々の知つてゐる通りである。澤山の低劣な人間が、衛生學と醫術の努力に恵まれて長生きをし、その數が増加し、人間に有害な影響を與へたのである。併しさうかと云つ

て、精神病でも犯罪人でもない者を、劣弱な人間だからと云ふ理由で生殖を妨止することは出来ない。一腹の仔犬のうちの缺點のあるものを殺してしまふことは出来るが、劣弱の子供をなきものにするわけには行かない。そこで、劣弱者の不祥な大増加を防止する唯一の方策としては、優良な人間・强者をどし／＼發達させるべきである。劣質者の改善に向けられた努力は無効であることは明白になつてゐる。むしろ良質者の發達を助長する方がだけかもしれませんが分らないのである。又、弱者・劣者に効果的な助けを與へるのも、强者・優良者をより強くすることによつて始めて期すべきである。大衆はいつでも、少數の優れた者の思想や發明や、彼等によつて建設された機關や事業によつて善益を受けるのである。それ故、現在なされてゐるやうに、心身の不平等を平均させようと努力するのでなしに、水準以上の人間を養成し稱揚すべきで、强者を抑壓して弱者を持ち上げ、かうして世界中に凡物ばかりをうよ／＼させると云ふ危険な考へは放棄すべきものである。

そこで、子供の間から優秀な潜在能力を有つてゐる者を捜し出し、彼等を出來るだけ完全に發達させることが必要である。かうして、國家へ世襲的でない眞の貴族階級を得せしめねばならない。かやうな子供は社會の凡ゆる層に見出せる。只、優秀者は、兩親が聰明である家庭に屬してゐる方が、さうでない家庭に屬してゐる場合よりも一層多い。昔、アメリカの文明を築き上げた人々の子

孫には、先祖の優良な性質を保有してゐるのが多かつた。但し今では、一般的に見て、此等の性質が退化といふ形貌の下に隠れひそんでゐる。この人間の頹廢は、間違つた教育と惰弱生活と、責任感及び精神訓練の缺乏から來てゐる。そこで、例へば富豪の子供らは、犯罪人の子供同様に、幼少の時から、彼等を墮落させるやうな環境から引離さねばならない。かうして家庭から遠ざけられると、そこで初めて彼等は、自分の遺傳性能力を發揮し得るやうになるであらう。實際、今でも歐洲の貴族の家には非凡な氣力をもつた人物がある。フランスにも、英國にも、獨逸にも、今尙、十字軍と、封建時代に覇業を成した貴族の子孫は非常に多くゐる。實驗遺傳學の法則によると、彼等の間から、冒險的な剛勇果敢の人物が現はるべき可能性があるのである。犯罪人の血統であつても、そこに非凡の想像力と剛膽と明智とが現はれてゐる限りは、社會改造のための進取的な精銳部隊を編成する爲には採用すべきである。フランス革命やロシア革命の子孫も同様に利用さるべきものであらう。犯罪性に至つては、已に知られてゐる如く、それが病的の精神低劣か、其他の精神乃至髓の缺陷かに結びついてゐない限り、決して遺傳するものでない。他方では又、篤實で聰明で眞面目で、職業に成功しないで失敗するか、またはつまらない位置にゐて碌々と一生を過した人々の子供にも、稀には優秀な潜在能力を見出すことがある。さうした能力は、何代も同じ小作地に住み古

るしてゐるやうな農家の中には一般的に云つて先づない。併し又、かやうな環境から、藝術家や詩人や探検家や聖徒などが飛び出すことも往々ある。例へば、卓越した者を澤山出したので有名な紐育の或る一家は、シャルルマニユ帝の時代からナポレオン時代まで、南部フランスの僅かな同じ田地を耕して來た農家の出である。

優秀な體力と才能とは嘗てそれが現はれたことのない家系に突如として出て來ることがある。

「突然變異」は、動植物と同じく人間にも起り得るのである。吾々は無産者の家で、異常な發達をなし得るやうな子供を見出すことがある。併し、かう云ふのはむしろ稀なことである。そこで實のところ、一國內の人民がいろいろの階級に分かれてゐるのは、決して偶然の結果でもなければ社會契約の結果でもなく、一つの深い生物學的基因から來たことである。即ち、この階級的分立は個人の生理的・精神的特質に係はつてゐるのである。アメリカ合衆國やフランスのやうな自由主義國では、過去に於て一々の個人が自分の力量次第で自由に位地を得、身分を高め得たので、同様に今日無産者になつてゐる者等は、自分の身體乃至精神の遺傳的缺陷のためである。また、農民の大部分は中世紀時代から自發的に耕地に踏み留まつて來たもので、これは彼等が、農業生活に必要な勇氣と思慮と抵抗力とを有するかたはら、想像力に乏しく、大膽な冒險心を缺いてゐて、農夫として生

きるが丁度適當した人間だつたためである。殊に彼等無名の農夫の先祖は土地に熱烈な愛着を寄せてゐた開拓者で、彼等は歐洲の國々の名もなき兵士、牢固たる鐵骨として國の守りとなり骨組となつてゐたので、やはり優秀な性質も具へてゐたとすべきであるが、而も尙その心身の構成に於て、土地を攻略し、凡ゆる侵入者に對してそれを防衛した中世紀の領主に比べると劣つてゐたとしなればならない。つまり彼等は農奴として生れつき、後者は王者として生れついてゐたのである。殊に今日では、社會的階級が段々に一層多く生物學的階級となつて行くのが必然の勢ひである。總ての人間は、肉體と精神の特質が決定する水準にまで昇つたり降つたりしなければならぬ。優良な體質と精神を有つてゐる者の上昇を助け容易にすることこそ必要である。各人はその適所を占むべきである。現代の各國民は、自國內の強者を發達せしめることに依つてのみ救はるべく、弱者を助ける事によつては救はれるものではない。

七

精銳部隊を作り出すこと——自發的の優生運動——遺傳的の貴族主義

優秀者を一代のみに終らせぬためには、優生運動が必要である。一體、一つの人種なり民族なり

が、その優良な分子を再現させねばならないことは勿論である。この明白な理法に拘らず、今日最も文明の進んだ國々で、一般に生殖が減じ、生れる子供にも劣質の者が多くなりつゝある。それには、婦人が酒を飲み、煙草を嗜んで自ら體質を壞してゐることを擧げねばならない。彼等はまた、所謂すらしとした容姿をつくる目的から危険な性質の食物を常用してゐる上に、子供を産むのを避けてゐる。彼等のかうした間違つた態度は、今日の教育、女權運動、曲解された一種の個人主義に根をおいてゐる。又、經濟上の事情や、結婚生活の不安定や、神經の病弱性や、子供の虚弱さや、不良化から來る重荷の故でもある。ごく古い、由緒ある家柄の婦人達は、良き子供を産み、又それを適當に賢く養育し得る可能性を有つてゐたはずであるのに、どうしたのか大概皆不妊症である。子澤山なのは、こんな遺傳上の良質をもつてゐない渡り者とか、農家の女達とか、一般に又、ヨーロッパの最も原始的な國々の無産階級の女達である。彼等の子供には到底、北アメリカの最初の移民の子供のやうな能力を見出すわけに行かぬ。國民中の最も優越した人々の間の出産率を高めることは、先づ生活や思想の習慣に深い變革が起り、地平線上に一つの新しい理想の太陽が昇つてからでないとは期待出来ない。

優生運動は慥かに、文明民族の運命に一つの大きな影響を與へ得る。固より、吾々は人間の生殖

を動物のそのやうに調節し得ないが、狂人や精神低劣者のそれを防止することは出来得るやうにならう。恐らく又、新兵とか、ホテルや病院や大商店の雇人とかになされてゐるやうに、結婚しようとしてゐる者達には體格検査を行ふことが必要であらう。併し現在のやうな體格検査には十分の確實性を期することが出来ない。時々、裁判所で専門家の鑑定報告がそれと反對の内容を示す場合があるのを見ても、あまり信をおくわけに行かないのである。それ故、優生運動が效力を發揮するためには、それが自發的になされねばならない様である。適切な教育によつて若い男女に、梅毒や痛や結核や神経病や精神病や、又は精神低劣のある家と婚姻關係を結ぶことが、自分を何んな不幸にさらすこととなるかを了解させることが出来よう。彼等はこんな家が縁組の相手として、少くとも極貧な家位に好ましくないものと見るやうになるべきである。實を云ふと、こんな家は、強盜や殺人犯の家よりも一層危険である。どんな犯罪者も、他家へ精神錯亂の素質を持ちこむほどの不幸を與へ得るものでない。

自發的優生運動は實現性のないものでない。疑ひもなく、戀愛は風と同じほど氣まかせに吹きあ
る。しかし、戀愛がさうした、他の一切を顧みない性質のものであると云ふ見解は、青年のうち
に、富家の娘でなくては戀せず、若い女達でも富家の子息を選ぶ者の少くないと云ふ事實によつて

揺がされる。戀愛が黄金に耳を傾けるものであるなら、黄金と同様の實際的重要性のある健康につ
いて顧慮しない筈はなさうである。寔に、何人たりとも、遺傳性の惡素質を有つてゐる者と結婚
すべきではない。正常な生活には、健全な肉體と精神とが缺く可らざるものである。人間の不幸の
殆どすべては、肉體と精神の構造と特質から來るのであつて、廣い意味で云へばその遺傳素質から
來るのである。随つて、精神病や精神低劣や、又は癌のやうな、あまりにも重い遺傳性の惡傾向を
たくはへてゐる者共は、決して結婚すべきでない。他人へ慘苦の生涯を押しつける權利は何人にも
ない筈である。況んや、不幸な運命を背負はされたやうな子供を生む權利は全然あり得ない。實際
優生運動は多くの個人の犠牲になることを要求する。この犠牲の必要は、吾々が今になつて始めて
直面したのではなく一つの自然の法則である。自然は時々刻々に、非常に多くの生物の犠牲を他
のものゝ爲に要求する。犠牲が社會的にも個人的にも如何に重大な必要事であるかは吾々の熟知し
てゐる所である。總ての大國民は、有史以來常に、自分の生命を祖國への犠牲にした者に對して、
他の何者よりも以上に尊崇して來たのである。犠牲の觀念、及びそれが絶對的な社會的必要である
ことを、現代人の頭腦へしつかり植ゑつけられねばならない。

かくて優生運動は、優秀者の減少を防ぎ得るのであるが、彼等に無限の進歩を遂げしめるには十

分なものでない。いくら優良な系統であつても或る一定の水準以上に優れたものは出て来ないものである。そして一方には、競馬用の馬の場合と同じやうに、人間でも時々、意外な血統から例外的な優秀者が出ることがある。吾々はまだ、天才がどんな風にして生ずるかを全然知つてゐないし、何うしたなら生殖細胞の核質の中へ漸進的な發達を起させ得るか、何うすれば、適當の「突然變異」によつて、優秀者の産出を來たさしめ得るかを知つてゐない。そこで吾々は、教育や、特別な經濟的補助と云ふやうな間接の方法を通じて、民族の優良な男女が自由に容易に結婚し得るやうにするだけで満足すべきである。優者・強者として生れついた者の進歩發展は、その發育の條件や、両親が自分の生存中に得た良質を何の程度に傳へ得るかと云ふ事に係はつてゐる。それ故、現代の社會は須らく、總ての者、殊に優秀者が、一つの安固な生活を有ち、家庭といふ一つの小さい世界を作り自分の住宅を有ち庭園を有ち、親しい友人を有ち得るやうにしてやるべきである。そして、子供等は両親によつて育てられ、彼等の精神を反映してゐるものの中で成長せねばならない。子供の相手としてのグループは人數の可成り少ないものであるべく、家庭は十分永續するものであり、家族同士の間柄がしつくりと引き締つてゐて、両親の人格がいつもそこに感じ取られるやうになつてゐるべきである。今日では、小作人や職人や美術家や教師や學者が經濟上の行詰りから、一轉して手

か頭を唯一の稼ぎ道具にする無産者に零落するためしが續々と出て來るが、こんな轉落を防止することは絶對的な緊急事で、かやうな無産階層の存在は科學的文明にとつては此の上ない汚辱と云ふべきで、之を放任しておくなら、社會單位としての家庭が破壊されて行き、延いて理智と道徳心の絶滅を來たし、まだしも残つてゐる文化と美との殘遺物を絶やし、人類それ自身を低下させることになる。個人と家庭が最もよく發達し得るためには、一種の安定が絶對に必要である。結婚生活が一時的の同棲であるといふ惡風を絶滅すべき必要はあまりにも明白である。男女の結合は、高等類人猿の間に見られる如く、少くとも子供等が親の庇護を要しなくなる頃まで存続しなければならぬ。教育、殊に女子教育と、結婚と離婚とに關する法律は、次代の利福を計るものとして改變されねばならない。女子が高等の教育を受くべき理由は、博士や辯護士や教師になるためでなく、自分の子供等を優良な性質を有つた人間に仕上げ得るやうになるためである。

自發的の優生運動は、一層強い優れた個人を生ぜしめることだけでなく、抵抗力と聰明と勇氣を遺傳するやうな家族を作り出すであらう。かくの如き家族は一種の貴族主義を形成するもので、その中からは優秀な人物が生れるであらう。現代の社會は須らく、凡ゆる手段を盡して人類の改善を計るべく、賢明な結婚をすることによつて天才的な子供を産み得るやうな人々に對しては如何なる

經濟的乃至社會的利便を與へてもよく、どんな高い名譽的待遇を與へても與へ過ぎにはならない。吾々の文明は複雑を極めて居り、何人もその多種多様な機構を究めつくしてゐない。併しそれにも拘らず、此等の内部構造は、知悉され、操縦されねばならない。この仕事を完成するには、尋常以上の知能的乃至道德的器量を有つた人物を造り上げねばならない。優生運動によつて生物學的・遺傳學的貴族主義を建設することこそは、現在の大きな諸問題を解決する上での重要な階程となるに違ひなからう。

八

個人の形成に働く物理的乃至化學的要因

人間に關する吾々の知識はまだ不完全であるが、それだけの知識によつても、その身體と精神との形成に干渉し、その凡ゆる潜在能力を發達せしめる上に援助を與へ得るのである。つまり、吾々の欲望が自然の法則を離れてゐない限り、この欲望通りに人間を鑄出すことが出来るので、吾々は三つの違つた方法を適用し得る。その第一は、身體に、組織と體液と腺の構造と精神活動を變化せしむるやうな化學的物質を送りこむことである。第二は、外側の環境へ適切な變化を與へることに

よつて、心身の凡ゆる活動を調整する機能——即ち適應の機能を十分に働かせることである。第三は、身體の發達に好影響を與へ、個人に自分で自分を養成して行くだけの氣力を與へるやうな精神状態を起す事である。此等の方法は、物理的・化學的・生理學的・心理學的性質を有する手段を利用するが、此等の手段の取扱ひは困難で正確を期し難く、吾々はまだ不完全にしかその使用法を知つてゐない。只、此等の及ぼす影響は身體の一部分に限られてゐず、總ての系統に行きわたるのである。又、その働き方は、少年時代と青年時代に於てさへ緩漫に働く。しかし、それらは常に人間に深い決定的な効果を刻みつける。

外部環境から來る化學的乃至物理的動因は、周知の如く、組織と精神に、著しい變化を與へ得るものである。人間を抵抗力の強い剛膽な人物にするには、山地の永い冬、焼けつくやうな炎暑と萬物が氷りつくやうな酷寒とのこもくやつて來る國、冷たい霧と乏しい日光とを特色にし、暴風で叩きつけられ、土地が貧寒で岩澤山であるやうな地方を利用すべきである。かやうな土地においてこそ、剛健で熱情的な優秀者を養成するための學校を建つべきである。太陽がいつも照り輝き、氣温が暖かく一定的であるやうな南の國々は不向である。伊太利のリヴィエラ海岸地方とか米國のフロリダ州などは、變質者や病人や老人や、又は一寸の間休養を執らうとする尋常人のみの行く處で

ある。暑さ寒さと、乾燥と濕潤と、灼熱の太陽と雨雪と、風と霧との交代に、一言で云ふなら、北歐地方では普通であるやうな氣象の暴虐にさらされてゐる人間では、精神上の氣力と神経の平衡と肉體の抵抗力とが増大するのである。西班牙のやうな酷暑もあればスカンデナヴィアのやうな嚴冬もあると云ふ北アメリカの酷烈な氣候こそは、嘗てのヤンキーが傳説的な體力と剛勇とを有ち得た原因の一つであつたと思へる。しかし此等の動因も、人間が家の中を快適にし、家居生活と座業生活をするやうになつてからはすつかりその鍛鍊的な效力を失つたのである。

吾々は現在のところ、食物の中に含まれてゐる化學的物質が心身の働きに及ぼす影響についてよく知つてゐない。この問題に關する醫學者の説はいくらも價値のないもので、それは彼等がまだ、十分長期に亙つて人間實驗を試み、一定の食物攝取から來る影響を確かめてみたことがないからである。ただ知られてゐるのは、過去に於て、その智慧と慄悍さと豪勇とを以て覇を成したヨーロッパ人種の強者等が、主に獸肉と粗搗あらつきの麥粉と酒類とを攝つてゐたことで、かういふ主食物の影響を精しく知るためには、新しい實驗を重ねることが必要である。しかし、食物の攝り方と、その分量と成分とによつて、身體へも精神へも特殊な影響があらはれると考へられるので、創造し進出し指導する運命を擔つてゐる者には、手工業者の食物は適しないと言つてよからう。又、かう云ふ人

人には、靜穩な修道院の中に住んで、自分だけは時代の熱情を揉み消してしまはうとして瞑想三昧を事としてゐる修道僧達の食物も不適當であらう。しかし、差し當つて吾々は、事務所や工場の中で機械的に生きて行く現代人に適した食物を發見すべきであるが、恐らく、彼等が飼育動物のやうな缺陷を起さないやうにするためには、何よりも、あの椅子や腰掛おしりかけに坐つたまゝでゐる時間を減らすことが必要であらう。勿論彼等へ、自然物と動物と同じ人間とを相手の不斷の戦ひで一生を送つてゐた吾々の祖先達と同様の食物を宛てがふわけには行かぬが、しかし各種のビタミンや果物を攝らせたところで健康を改善することは覺束ない。此等の物質は、なにも特別にとらなくとも、牛乳やバターや穀物や野菜の中に十分含まつてゐるのであるが、それ等を喰べてゐる一般の人民は何うかを見ると、今まで、まだ別に大した健康状態なり精神上の優良さを示してはゐないのである。實驗室で理論上申分のない食物で飼はれた動物にしても同様である。むしろ吾々は、體を太らせたり重くするのでなしに、筋肉をしなやかで強くし、神経の抵抗力を高め、精神の働きを敏活にするやうな物質を要するのである。恐らく何時か、どの學者かによつて、丁度蜜蜂が、特別に調へた食物を與へるだけで一匹の普通の幼蟲を女王蜂に變化させるやうに、普通の子供をでも偉大な人間に仕立てるやうな手段を發見するかもしれない。併し又、何等かの物理的又は化學的要因が、單にそれ

だけで個人を大して進歩させることはなさうである。心身の優越は、種々の遺傳と發育の諸條件の協同に負ふものである。而して發育の過程に於て、化學的要因は心理學的・機能的要因と切り離さるべきではないのである。

九

生理的要因

總ての生理的組織の適應性の發揮は、個人の發達に著しい好影響を與へる。總ての機能と云ふものは働かせれば働かせる程、構造が磨り耗らずに、一層抵抗力のある強靱なものになるのである。又生理的・心理的活動を刺戟することは各組織や精神を改良する最も確實な方法である。それには、諸々の機能を一樣に動員して、秩序ある運動を起させ、一定の方向に導くことによつて、容易にさうした効果を収めることが出来る。例へば、よく知られてゐるやうに、一々の筋肉群は、適當の運動によつて一齊に發達させ得るもので、筋肉だけでなしに、筋肉に榮養を補給する機關と、全身をして長時間の努力に堪へしめる機關とを併せて強化しようと欲するなら、典型的スポーツよりもつと變化のある運動が必要で、吾々の祖先が原始生活で日毎の必要からやつてゐたやうなのが、こ

の意味での運動である。大學で教へられてゐるやうな専門化せられた體育では、眞に抵抗力のある人間を鍛へ出すわけに行かない。筋肉、血管、心臟、肺、腦髓、骨髄等を含む諸系統、つまり生體の全部を活動させることが必要で、凸凹のはげしい地面を駆けまはつたり、山坂を登つたり、角力をとつたり泳ぎをしたり、森の中や田畑で働いたりし、同時に風雨寒暑の咎にさらされ、或る種の嚴酷な生活方法を守つてゐると、筋肉と骨格と凡ゆる器官と精神とが美しく調和的に發達するものである。

又、吾々は身體をこんな風に持ちこなすことによつて、外界の變化へ堪へしめるための重要な諸器官を鍛へることが出来る。木登りや崖登りのやうな自然的の行ひは、血清の成分と血行と呼吸とを調整する總ての系統に活動を促すことになるし、高山などに滞在してゐると、赤血球の製造に當つてゐる諸器官を盛んに活動させることになる。又長い距離を走りつゞけてゐると、筋肉の間に出來て血液の中へ流れこんでゐた多量の酸を排除するのに役立つやうな諸現象が出て來る。渴きが組織の水分を干してしまふなどはその一つである。又、絶食をすると、諸器官の蛋白質と脂肪物質とが徵發されるし、暑い所から寒い所へ、寒さから暑さへ出入りするものは、體溫の調節をする廣汎な機能に活潑な働きをさせることになる。その他、適應作用を促進するやうな方法は澤山ある。此等

を十分に働かせることが身體全部を完成させることになり、之によつて身體の調和を計る諸機關が一層強く、一層しなやかに、一層よく機能を營み得るやうになる。

身體と精神の諸機能が全一的に調和してゐることは、個人の有し得る最も重要な特性である。それを得るための方法・手段は、各個人の特殊な性能にしたがつて異なるのであるが、どの場合にも精神の努力を要する。吾々が諸機能の平衡を保つて行くのは、結局自分の理智を働かせ、克己的な生き方をすることに依つてである。一々の人間は自分の生理的欲望と、酒で酔を買ふとかスピードを速めるとか、周囲の不斷の變化を欲すると云ふやうな人爲的の欲求を満足させようとする天性的な傾向を有つてゐるのであるが、この傾向を悉く満足させるのは自分を退化させることになる。それ故、飢を抑へつけ、眠いのを我慢し、性慾や懶け心に打ち勝ち、運動や飲酒等の嗜慾をも抑制するやうな習慣をつけねばならない。睡眠と食事が多過ぎるのは少なすぎるよりも一層有害である。個人を訓練して、強い平衡のとれた活動をする人物に仕立てるには、先づ調教のやうな仕込みを與へ、この仕込みが身についてからは、段々にそれへ理智の助力が加へられるやうに爲向けることが必要である。

各自の個人的價値は、外側のいろ／＼な状態に對して、別に努力をせずとも早速に對抗し得る能力如何による。そしてかやうな程度に達するには多くの反射作用と、非常に多種多様な本能的反應とを作り出すことによつて得られる。反射作用は、個人が若いほど容易に作れるものである。子供は、自分の中へ有益な澤山の反射作用を蓄めこむことが出来る。實際子供は、牧羊のうちの最も伶俐なものよりか一層容易に調教し訓練され得るのである。吾々は彼等を仕込み鍛へて、平氣で走り続けたり、猫のやうに飛びおりたり、攀ち登つたり泳いだり、調和的なゆとりを以て立ち止つたり歩いたりし、周囲の出來事を正確に觀察し、眠氣を残さず早く眼を覺し、いくつもの國語を話し、服従し攻撃し防禦し、澤山のいろんな仕事を手先で巧みにやつてのけるとか、總てのさう云ふ事をなし得るやうにすることが出来る。道徳的習慣も同じ具合に作り出せるものである。犬の如きでさへ盗みをしないうやうに教へられる。總じて、誠實や公明や勇氣は、反射作用を作り出すことに用ひられた方法によつて、即ち、推理や論辯や説明なしに發達せしめらるべきもので、一言で言ふなら子供は仕込まるべきものである。

この仕込みコンヂンシオレスマンと云ふのは、パヴロフのつくつた専門語で、つまりは、幾多の聯絡し合つた反射作用を作り出すことである。昔から動物の調教に用ひられた方法を科學的・現代的な形で適用することである。これ等の反射作用が出來上つてゐると、そこには又、當人にとつて不快な事と好ましい

事との間に一つの直接な関係が成立つのである。一匹の犬にとつて、鐘の音や銃聲や、又は鞭の響きが、好きな喰べ物の同義語（同種の感じを起させるもの）になり得るやうに、人間の場合でも同様である。未知の國へ遠征に出かけた時、食物や睡眠の缺乏を苦しまないやうなものである。肉體上の苦しみは、それが連続的な努力と結びつき、成功を伴ふものである以上容易に堪へられる。死ぬことさへも、それが一つの大きな冒険と結びつき、美しい犠牲としての意義を有つか、又は神の懷へ歸る時の靈の大悟と結びついてゐる場合には微笑を以て迎へられるのである。

10

心理的要因

心理的要因は已に誰もが知つてゐる如く、個人の發達に一つの著大な影響を及ぼすものである。それは身體と精神とに決定的な形質を與へる上に寄與する所が非常に多い。先に述べておいた如く適當な反射作用を作り出すことによつて、子供は容易に自分を或る種の外側の事情に適應し得るやうになるもので、澤山の反射作用を習得してゐる者は、いろんな状態に手際よく適應して行く。例へば、敵に攻撃されると、忽ち應戰することが出来る。併し此等の反射作用は、豫想外の、又は豫

想され得ない性質の新状態には即應させるものでない。それ等の凡ゆる事態へ巧みに自分を適應させる全勝的な性能は、神經や器官の諸系統や精神やの或る種の性質に係はつてゐる。此等の特性は或る種の心理的要因に影響されて發達するものである。例へば吾々の知つてゐる如く、知能と道德感との訓練は、交感神經によりよき平衡を得せしめ、諸器官と精神の活動により良き調和を得せしめるのである。此等の要素には、外來性のものと内存性のものと二種類があつて、前者に屬するのは、他の人や、當人の社會環境によつて要求される總ての精神の反射作用と状態である。生活が安定してゐるか否か、貧乏であるか富裕であるか、努力し力争するか、懶惰であるか、責任を重んずるか等と云ふ事がそれに相當した心的態様を作り上げる。第二の種類に屬してゐるのは、注意力や思考力や征服の意志や禁慾やの如く當人自身に依屬してゐる内心状態である。

しかし、これ等の心的要因を個人の養成上に使ふことは、非常に手加減が難しいものである。しかし、子供の知能形成を導くことは容易に出来る。適當な教師と書物とは、子供の内なる世界へ、その身體と精神の發達に影響を與へるやうな觀念を植ゑこむのである。吾々は已に、道德心、美意識、宗教心と云ふやうな心的活動の發育が知能教育から獨立したものであることを見ておいた。此等の活動へ影響を及ぼすことの出来る心理的要因は社會的環境に屬してゐるのだから、當人を適當

な環境に置くことが必要である。そこで當人を或る種の心理的外境で包圍することが必要になつて来る。尤も今日では、子供に、不如意と缺乏と、争鬭と、刻薄な生活と、眞の理智的修養等から来る利益を得さずのは非常に困難である。内面生活の發達から来るものにしても同様である。内面生活と云ふ私的な、隠された、他人と分け合ふことの出来ない、非民衆主義的なものは、多くの保守主義の教育家からは罪とさへ見られてゐるものである。しかし、之こそは凡ゆる獨創性の源泉であり、凡ゆる偉大な行動の出發點である。之のみが個人をして、群衆の眞只中で自己の人格を保持させ、現代都市の亂脈と騷擾の中で、精神の自由と神経系統の平衡とを確保させるのである。

今言つたやうな心的要素は、個人毎に違つた働き方をする。それ故此等は、各個人の心身上の固有性を十分に知りぬいた者達によつてのみ適用さるべきである。各々の人間は、弱いか強いか、感情家であるか鷹揚であるか、利己的であるか理智的であるか愚鈍であるか、鈍感であるか敏捷であるか等々にしたがつて、同一の心的刺激にも違つた具合に應答する。それ故、此等の非常に手心を要する方法は、個人の形成を計る上に於て、盲目的に適用してはならないものである。併し又、一方には、一つのグループの人々や、同一國民に屬する總ての個人に一樣に働きかける經濟的乃至社會的事情がある。それ故、社會學者も經濟學者も、生活條件を、その變化から来る心理上の影響を

考慮することなしに變更させてはならないのである。極度の貧困も、何不足のない榮耀も、平和や群衆に巻きこまれてゐることや、孤獨になつてゐること等は、何れも人間の進歩にとつて好都合のものでない。多分人間にとつては、經濟上の安定、閑暇と、缺乏と力争との或る種の混合によつて作り出された精神的環境がその最上の發育に必要なものである。又、生存の條件の影響は、民族と個人とでそれ／＼違ふ。或る人々を押しつぶすやうな出來事も、他の人々には反抗と勝利へ導くものとなる。經濟的・社會的環境は人間に合はせて作らねばならない。人間をそれに準はせてはならない。吾々は身體の諸系統へその全部的な活動を助け保つに適したやうな心理的環境を與ふべきである。

言ふまでもなく、心理的動因の効果は成人に於てよりも、子供と青年に於てずつと著しい。それ故、此等を適用するには、青少年期といふ、生涯の可塑的な時期に於てすべきである。併し段々に弱まるとは云つても、その影響は全生涯に互つて現はれ存するのである。肉體が成熟しきり時間の値が減じて行く頃には、むしろその重要性が増すのであつて、殊にその効果は、老いて行く身體にとつて非常に有益である。すなはち、精神と身體とを活動状態に於て保つことは、老衰の到來を遅延させることになる。熟成期と老年期との間にこそ、人間は青年期以上に嚴格な一つの紀律を要するもので、早期の體力衰壞は、自分を放棄したことから來てゐる場合が多い。吾々の形成を助けた

のと同じ要素は、吾々の衰退を遅延させることも出来る。これ等の心理的動因を賢く使役することは、身體の組織と、知能および道念の寶庫が老衰といふ深淵の中へ崩れ落ちる時期を遠ざけるのである。

一一

健康

健康には、周知の如く、自然的な健康と人工的な健康と二種ある。吾々が欲し求めるのは、傳染病や退化的な病氣に對する組織の抵抗力と、神経系統の平衡から来る自然の健康で、特定の食養生や、ワクチンや血清や、内分泌物やビタミンや、定期の體格検査や、醫者・病院・看護婦の高價な保護にたよつた人工の健康ではない。人間はこんなものを要しないやうに造らるべきである。醫學にしても、吾々が病氣や疲勞や恐怖を知らずに居れるやうな方法を發見してこそ、最大の捷利を得たことになるだらう。吾々は人類に、心身の完全な活動から来る自由と喜びとを與へなくてはならない。

しかし、健康のかくした觀念は甚だしい反對を受けるであらう。かやうな健康觀は在來の思想を掻き亂すからである。近代醫學は人工的健康を作り出すこと、一種の生理統制の方へと向つてゐる。その理想は、純粹化學物質を使つて組織と器官とへ干渉し、不十分な機能活動を促進したり補償したりし、感染への抵抗力を高め、病原物に對する器官と體液の對應作用を増進させること等々である。つまり吾々はまだ、人間の體を粗漏に造られた機械と見、その部分々は絶えず補強をしたり修繕しなければならぬものと考へてゐる。ヘンリ・デルが最近の演説で、過去四十年間に於ける治療學の勝利を稱揚し、免疫血清や豫防液やホルモンやインシュリンやアドレナリンやチロキシン等や、砒素の有機化合物や、ビタミンや、性的機能を調節する物質や、苦痛の緩和なり、不全機能の促進を目的に化學製法で得られた多種類の新藥品を擧げてその發見を讚嘆し、此等の新製品を造るためにどえらい工業實驗所が續々建設されつゝあることを自慢したのは尤ものである。化學と生理學の方面に於ける此等の進歩が非常な重要性を有し、吾々に段々と身體の隠れた機構を發見して見せ、醫學を促して一つの確實な途を進ませるのは明かである。併しながら、此等は果して、今からもう、人類の健康獲得の大勝利と見らるべきものであらうか？ そのさうでない事は斷るまでもないからである。生理學は經濟學と同列に置かるべきものでない。社會的・經濟的現象に比べると器官と體液と精神の活動は無限に複雑である。統制經濟は成功することもあり得よう。

しかし、統制生理の成功は實現しさうもないのである。

現代人にとつては人爲的な健康は幾らのたしにもならないものである。醫者に診て貰つたり療治してもらふのは面倒で煩はしく、又大概はさしたる效驗もない。病院に入つて手當をしてもらふとなると費用が大變で、その効果も期待するほどには行かない。今日では、見たところ健康さうな男も女も、しよつちゆうどこか知ら小修繕を要してゐる。つまり彼等は、人間としての役割を立派に果し行くほどの健康と體力を有つてゐないのである。健康とは、病氣でないと云ふ事よりもずつと大きなことである。一般人が段々と醫術へ信頼をおかなくなりつゝあるのも、或る點までかうした健康觀の表現であると云へよう。人間の眞の性狀を考慮に入れられない限り、人間にその欲するやうな健康を得させることは不可能である。吾々の已に確かめてゐる如く、器官と體液と精神とは一つの全體をつくつてゐるので、此等は皆、遺傳性の傾向と、發育の事情と、環境の化學的・物理的・生理的要因とから來た總結果である。又、健康が、身體の各部分の化學的・組織的構造と、身體全部の特質に係はつてゐることも吾々に知れてゐる。そこで吾々は、個々の器官の機能の活動に干涉するのでなしに、この身體全部を助けてその全一性を維持させるやうにすべきである。自然的な健康は眼のあたり觀察される事實であつて、それを有つてゐる人々は、傳染病にも、退化性の病氣にも

老年期の衰弱にも抵抗する。この抵抗の由つて生ずる祕密を發見しなくてはならないのである。自然の健康を獲得することが如何に人間の幸福を増すことかは全く計りがたい。

衛生學が傳染病と惡疫大流行に對する戦ひにすばらしい成功を收めたことは、生物學的探究をして幾らか、バクテリアやウイルスから離れさせ、生理的乃至心理的方面へ轉ぜしめるよすがとなつた。醫學は今や、器質的諸疾患をごまかすことに満足する代りに、それを豫防し治癒させることに努力すべきである。例へば、患者にインシュリンを與へて糖尿病の症候を消失させるのでは十分でない。インシュリンは糖尿病を癒やすものではない。この病氣はその原因と活動力の弱つた腺細胞を新生させるか、或はそれを取りかへる方法を發見される事によつてのみ征服されるのである。病人に特殊の化學的物質が缺けてゐると云つて、それを與へるだけでは眞の健康を得させることにならない。必要なのは、器官自らが體内でさうした化學的物質を造り出すやうにすることである。一體又、腺の榮養に關する知識は、その分泌物に關する知識よりも遙かに得難いもので、吾々は今まで樂な途だけを歩んできたのである。吾々は今こそ、未知の領域にある吾々自身の最も奥深い處へ乗り込むべきである。醫學の進歩は、一層大きく一層設備の整つた病院や、一層大きな最新式の藥品工場を建てることから來るのでなく、適當な想像力を具へた學者が現はれ、實驗室の靜寂の中

で沈思熟考し、且つ實驗し、遂に、化學的構造といふ舞臺や、生體や精神の祕奥の幕を引き開けることにのみ係はつてゐる。約言すると、自然の健康と云ふものを獲得するには、身體と心靈に關する吾々の知識が現在よりもずつと深くなることを要するのである。

一一

人格の發達

吾々は、現代生活によつて弱められ、鑄型にはめられてゐる人間に、彼等の人格を回復させなければならぬ。男女の兩性はもう一度はつきりと限定され、人間は明確に、或は男、或は女にならなければならぬ。そして各個人は決して、その異性の性的傾向や心的特性や野心を現はしてはならない。次いで又彼等は、男性或は女性に固有の、特殊な豊富さと多様相を有つた活動に於て自らを發達さすべきである。人間は機械によつて大量に生産されたものではない。彼等の人格を再建するためには、學校だの工場だの事務室などと云ふ既成概念の枠を破り、工業文明の原則そのものをさへ廢棄しなければならぬ。

而も、かやうな革命は決して實現性のないものではない。教育の革新は、多くの學校へ變更を與へることなしに遂行され得るのである。しかし又、吾々が學校と云ふものに與へてゐた價値は再評價されねばならない。吾々は人間が個性を持つてゐるから集團的に教育さるべきものでないといふ事を知つてゐる。學校は兩親によつて與へられる個人的教育の代りになり得るものでない。小學教師のうちには、兩親の知能的役割を相當によく果してゐるのが多い。併し子供の道徳的・美的・宗教的活動を發達させることが缺く可らざる事なのである。兩親は子供の教育に於てはのがれる事の出来ない任務を持つてゐる。彼等はこの務めのために準備されてゐるべきである。一體又、若い娘達は、時間の大部分を、子供の生理と心理と教育方法との學修にあつべきものであるのに、それがなされないでゐるのは、如何にも訝しいことではないか！ 婦人はその自然の職務に立ち歸るべきで、この天職は、子供を産むことだけでなく、養育し教育することに在る。

學校と同じに、工場も事務所も改革の手を免れ得るものでない。嘗ては、職人が自分の家と仕事を有ち、自宅で自分の氣の向いたときに自分の好きな様に仕事をし、自分の智慧と工夫を凝らし初めから仕上げまでを自分だけでやり、創作の樂みを味はひ得るやうな工業形態があつた。今日は職工等にこの利福を回復さすべき時である。幸ひ電力と近代機械の供給が行き渡つてゐるから、小工業も所謂工場から獨立することが出来る。又大工業にしても、やはりもつと分散的になり得るも

の思はれる。或は又、丁度一定年限の兵役が課せられるやうに、總ての若い國民達を短期間大工場で働かせることにしたら何うであらうか？ さうすれば無産階級なるものを消滅させることにもなるであらう。總じて人間は、果てしのない大群衆を作つてゐるのでなしに、小さいグループの中で生きるやうになるのが本當で、さうしてこそ、各自がそこで自分自身の人間的價値を保有して行くことが出来るやう。 又、彼等は機械の齒車であることを止めて、各自が一つの個人になるべきものである。今日では、無産者の生活位置が封建時代の農奴のそれと同じに、低くなつて居る。農奴と同様に、現状から脱出し、獨立し、他を支配する者にならうと云ふ希望は全然持ち得なくなつてゐる。しかし、これに反し或る種の職人は、いつか親方になれると云ふ正當な希望をもつてゐる。自分の耕地を有つてゐる農夫や、自分の小舟を有つてゐる漁夫は働きは辛くとも、誰にも頭をおさへられてゐず、自由に時間を使ふことが出来る。工業労働者の大多數にも類似の獨立と尊嚴とを有たせることが出来る筈である。又、大會社のだゞつびろい事務室の中、町ほどに廣々とした大商店の中でも、雇員は工場の労働者と同じやうに自分の人格を失はされる。實際、彼等は無産者になつてゐるのである。何うも、近代の商工業組織と大量生産主義とは、人間の人格的發達と兩立しないものやうである。 果してさうであるとしたなら、犠牲にさるべきは近代文明であるべく、人間であつてはならない。

又、社會が人間の人格を認め得たなら、その不平等をも容認すべきはずである。人間はそれくの特有な性能にしたがつて利用さるべきものである。然るに吾々は、人間の間に平等を打立てようとして、利用價値の非常に多い個人的特有性と云ふものを禁壓したのである。各個人の幸福は、自分を自分の受持つてゐる種類の仕事へびつたりと適應させることに係はつてゐるので、實際又、現代の國家の中にもいろいろ違つた仕事が澤山にある。そこで、人間の型を統一させるのでなしに多様化し、教育と生活習慣とによつて此等の相違を一層著しくすることこそ必要である。その反對に現代の工業文明は、總ての人間に必然に具はつてゐる差別を認めることなしに、彼等を大ざつぱに富者と無産者と農民と中産階級との四階級に壓縮したのである。各種の雇員、學校教師、警官、牧師、町醫、學者、大學教授、小商人などが中産階級の部類で、大凡同じやうな生活の爲方をしてゐる。彼等は、元來非常に懸け違つた型の人間であるが、かうして、その人格によつてでなく、収入程度にしたがつて一緒にされてゐる。しかし、この寄せ集め階級の中に何等眞の共通點がないのは明白な事實である。何れにしても彼等の生存は非常に狭苦しいものとなつてゐるから、その中では大きな人物になり得る者が、自分の精神的潜在能力を發達させようとしても、結局窒息してしまふ

のである。社會の進歩を促し助けるためには、建築師を動員し鋼鐵や煉瓦を買ひこんで學校や大學や實驗所や圖書館や教會を建てるだけでは駄目で、精神的な方面へ身をさゝげる人々のために、その特有性能と精神的理想とにしたがつて各自の人格を發達させるやうな便宜を與へてやることが必要である。中世紀に各種の教團が、苦行と神祕主義と哲學的思索とに適した生活様式を創り出した様なものである。

又、今日の文明は、その粗暴な物質萬能主義から、理智の飛躍を抑壓するのみでなく、感情のこまやかな者、氣心のやさしい者、弱氣の者、獨りぼつちになつてゐる者、美を愛する人々、生存の中で金錢以外のものを求めてゐる人々、現代生活の荒々しさに堪へないほど性狀の纖細に出來てゐる人々を壓し潰してゐる。昔は、かゝる、あまりにかよわい、或はあまりに不完全な人々でも自由に各自の人格を發達させて行く事が出來た。或は世間から離れて一緒に共同生活をしたり、或は修道院や病院又は瞑想的な集團にはいつて貧困と勞働と同時に威嚴と美と平和を見出したのである。そこで現代でも、この型の人々に對しては、工業文明の敵意ある條件のかはりに彼等に適したやうな環境を與へることが必要であらう。

それから、吾々の前には尙、精神的不具者や非常な數の犯罪者に關する問題が未解決のまゝになつてゐる。彼等のために、健全な國民は大した負擔をもたされてゐる。監獄や癲狂院の經費、民衆を強盜と狂人とから守護するための費用は莫大なものになつてゐる。實際、文明諸國では、此等の無益有害な者共を生かしておくために頗る幼稚な方法が執られてゐる。こんな不正常の人間共は正常な者の發達を阻害する。それ故、この問題はもつとよくその正體を直視すべきである。社會はもつと經濟的な方法で犯罪人と狂者とを處分すべきでなからうか？ 社會は自らがよく、責任のあるなしを識別し、眞に責任のある犯罪人を處罰し、精神上無罪である犯罪人は免してやるだけの判断をなし得ると揚言して來たが、それはもう止めてもらひたいものである。社會にそんな、人間を識別し判断する力などありはしないのである。むしろ社會は、自らにとつて危険な分子を容赦せず、それに對して自らを防護すべきである。すると何うしたらよいのか？ 固より、監獄を一層宏壯にし、一層居心地のいゝやうにすることに依つてではない。それは丁度健康が、一層大きく一層科學的な病院を建てることで改善されないと同様である。精神錯亂と犯罪とを消滅させることは、人間についての一層十分な知識、優生運動、教育と社會状態とに根本的な改革を加へることによつてのみ得られる。監獄の如きは恐らく廢止すべきものであらう。そのかはりに、もつと小さい、そしてもつと費用のかゝらない設備を以てすべきであらう。犯罪人のうちでもさほど危険でないのは、

管刑か、又はもつと科學的な方法で懲罰し、次いで救済院のやうな處へ短時日の間收容して矯正を計るべく、それで十分社會の秩序を保つて行けるだらうと考へられる。それから、殺人犯とか武装強盜とか、子供を誘拐したとか、貧乏人の物をしぼりとつたとか、重大な背任罪を犯した者共に對しては、適當なガスを用ひてらくに死なせるやうな死刑執行所を設くべきで、さうすれば人道的・經濟的に彼等を處分してしまふことが出來よう。精神錯亂者で犯罪人になつた者等に對しても、やはりこの處分方法を適用すべきであると思はれる。何れにしても、現代の社會は、健全な個人を本位にして躊躇なしに調整されねばならない。この必要の前では、哲學説も感傷的な先入觀も影を潜ますべきである。要するに文明の最高目的は人間の人格の發展である。

一三

人間の宇宙

人間が復興し、その生理活動と精神活動とが全き調和を得たなら、宇宙それ自體も一變するであらう。なぜなら宇宙は、吾々の身體の狀態次第でそれ自らの形貌を變へるからである。宇宙とは只吾々に知れてゐない、多分又永久に知りやうのない一つの外側の實在に對して吾々の神経系統と感

覺器官と科學的技術との與へる應答に外ならないといふ事を忘れてはならない。吾々は又、この事と共に次の諸點をも忘れてはならないのである。即ち、吾々の凡ゆる意識狀態、吾々の凡ゆる夢想、數學者のそれも戀人のそれも、悉くが一樣に眞實である事を。日没は物理學者にとつて電磁波の現象と見られ、畫家には絶妙な色の交錯として見られるが、いづれも優劣のない客觀的事實である。それ等の色によつて惹起された美的感情と、それ等を構成してゐる電磁波の長さの測定とは吾々自身の二様の活動で、同じ存在の權利を有するものである。喜びも悲しみも、遊星や太陽と同等に重要な存在である。しかし、ダンテやエマーソンやベルグソンや、又はヘイルの世界が、ミスタ・バツビット（米人シンクレアの小説に出てゐる普通型の市民）のそれよりか一層廣大なのは明かである。宇宙の大きさは、吾々の心身の活動が強さを増すにつれて必然的に増大する。

吾々は人間を、物理學者や天文學者やの天才が作つた宇宙から、ルネッサンス以來閉ぢこめられてゐた宇宙から解放せねばならない。物質の世界は、美しくもあり壯大でもあるが、人間にとつては狭すぎるのである。同様に吾々の經濟的・社會的環境も吾々の寸法には合はない。吾々はこの物質のみが實在すると云ふ學説を信じることが出來ない。吾々はむしろ、吾々の全部がその中に入りこんでゐるのでなく、吾々は物界の連続といふ「擴がり」よりももつと別の「擴がり」にまで自

らを延長させるものであることを知つてゐる。人間は物質性のものであれば生き物でもあり、凡ゆる精神活動の中心でもある。星と星との間の、無限の死の空間にも人間の存在が延び及んでゐると云ふことは全然問題外におくことが出来る。しかし、物質のこの廣大無邊な領域の中に於ける一人外人では決してない。その精神は、數學上の抽象物に依つて容易にそこを縦横に馳せまはるのである。しかし、人間はどちらかと云ふと地球の表面を愛好し、山や河や海を見る方を好み、樹や草や動物のやうに造られてゐる。人間は彼等の友達である事を好む。又、美術品や記念碑や、近代社會の機械的驚異や、親友や愛する者から出来てゐる小さなグループへ一層の愛着を寄せてゐる。さうかと思ふと又、空間と時間との彼方の、別の世界に自らを延ばすこともする。そして實に、この世界——彼自身であるこの世界から出て、さうしようと思ふと欲しさへすれば、無限の他の世界を駆けめぐることもし得る。學者や藝術家や詩人の觀照する美の世界、犠牲と英雄的行動と自己棄却への感激を與へる愛の世界、熱心に凡ゆる事物の本原を尋ね求めた者への最高報酬である恩寵の世界、吾の宇宙とは斯くの如きものである。

一四

人間の再建

今こそ人間革新の大業に着手すべき時である。しかし、吾々は次第書^{プログラム}の作成をしないであらう。なぜなら、豫定の計畫書なるものは、生きた實在を窮屈な鐵の函の中へ押込めて窒息させるからである。プログラムは豫想出来ないものの出現をさまざまに、未來を吾々の精神の限界内へ固定せしめる。

吾々は奮起し前進しなければならぬ。吾々を盲目的な機械主義・技術主義から解放させねばならない。吾々の凡ゆる潜んだ能力を、その複雑さと豊富さに於て實現せしめねばならない。生命に關する諸科學は、吾々の目的が何であるかを指示し、それに達すべきための手段を吾々の手中へ握らせてゐる。しかし吾々はまだ、無生物質の諸科學が、吾々の性狀に關する法則を無視して建てた世界の中に陥りこんでゐる。その世界——それは吾々の居るべき世界でない。なぜなら、それは吾々の理性のあやまりから生れたものであり、吾々自身の無知から出たものである。かくの如き世界へ吾々を適應させることは吾々の爲し得る所でない。随つて吾々はこの世界に對して叛逆するだらう。その價値を變更させるだらう。そして、それを吾々に適當なものとして整頓し、秩序立てるであらう。いまや科學は、吾々をして、自分の中に潜んでゐる總ての潜在能力を發達せしめ得るやう

にしてゐる。吾々は心身の活動についての祕密な機構を知り、吾々の弱さが何處から來るかを知つて居り、如何に吾々が自然の法則を破つて來たかを知つて居り、なぜ罰せられてゐるか、なぜ闇黒の中にさまよひ歩いてゐるかを知つて居る。しかも又、吾々は同時に、黎明の狭霧を通して救ひへの本道を見出しかけてゐる。

有史以來こゝに初めて、一つの文明が、没落の第一歩に突つかゝりながら、自らの害悪が何事に原因してゐるかを識り得たのである。それは多分、この知識を利用し、科學の驚くべき偉力に助けられて、過去の凡ゆる大民族に共通の悲惨な運命を避け得るであらう。新らしい道へ！ 吾々は直ぐに、今から、發足せねばならない。

(寺島製本)

昭和十三年七月三十日印 刷
昭和十三年八月五日第一刷發行

人 間 定價壹圓六拾錢

版權所有

譯者	櫻 澤 如 一
發行者	東京市神田區一ツ橋三丁目三番地 岩 波 茂 雄
印刷者	東京市神田區美土代町十六番地 島 連 太郎

三秀舎印刷

發行所

東京市神田區
一ツ橋三丁目三番地

岩 波 書 店

電話(33) 一八七番 一八八番
九段(33) 〇二二番(小賣部専用)
振替口座東京二六二四〇番

終